

デバイス療法の導入を検討されている
進行期パーキンソン病の患者さんご家族の方へ



デバイス療法に挑戦した患者さんの声

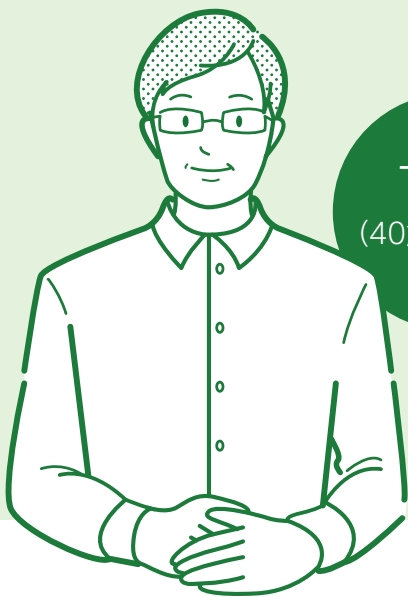
D-SMILE

— NCNP病院 国立精神・神経医療研究センターの経験から —

監修：国立精神・神経医療研究センター 脳神経内科
向井 洋平 先生

※ 掲載内容のような効果は患者さん個人の体験であり、
すべての患者さんに同様の結果がみられるわけではありません。

abbvie
アッヴィ合同会社



Tさん
(40歳代、男性)

仕事に復帰し、
日常生活が
戻ってきたことを実感

□ 内服薬だけではコントロールできなかった 突然のオフ症状

最初に受診したのは14年ほど前、肩の違和感や指のふるえが気になったためです。さまざまな検査を受けたのですが異常は見つからず、診断に至ったのは少し後のことです。まだ症状が弱かったのだと思います。

それから7年ほど経過した頃、徐々に状況が悪化していきました。薬を1日に5～6回内服しても突然のオフ症状を十分にコントロールできず、仕事に支障をきたすようになり、休職せざるをえなくなりました。

□ デバイス療法を導入することに、あまり迷いはなかった

主治医の先生からデバイス療法をご紹介いただいたとき、すぐに「導入したい」と思いました。未知の治療法に対する不安より、いつオフ症状が現れるかわからない不安のほうが大きいと思ったためです。もちろんデバイス療法のリスクも考えましたが、あまり迷わず導入を決めました。

□ 職場の理解を得られ、仕事にも復帰

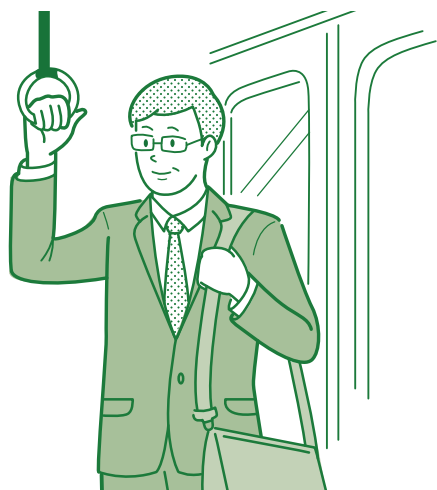
デバイス療法を導入すると、不意にオフ症状におそわれることが少なくなりました。以前に比べて症状をコントロールできているという感じがして、嬉しいです。

導入後、主治医の先生にも助けていただき、勤めていた職場の理解を得て、ついに復職することができました。もうすぐ復職から丸2年になります。症状が悪化する前と全く同じようにはならないですが、デバイス療法がなかったら復職は叶わなかったかもしれません。再び働くことができて良かったです。

日常生活が戻ってきたと感じられる

いまは買い物も自分で行きますし、日常生活に必要なことは自分でします。気になることといえば暮らしのなかの些細なことだったりして、そういうとき、日常生活が戻ってきたのだと実感します。

周りの方々がパーキンソン病を大げさにとらえず接してくださるのもありがたいですね。パーキンソン病であっても、適切な治療を行うことで、長年にわたり普通の日常生活を送れるようになってきたと考えています。ですから、周りの方々も普通に接していただくのが良いと思います。



導入を検討されている方へ

デバイス療法の導入にあたっては、期待するメリットがあるのか、一方でどのようなリスクがあるのか、よく考えて決めるべきだと思います。

目が悪くなれば眼鏡、歯が悪くなれば入れ歯を使うように、身体の困りごとには代わりのものを補って生きていきますよね。私自身は、パーキンソン病が悪くなったからデバイス療法を使うという考え方を違和感なく持つようになっていました。パーキンソン病の症状によって仕事や生活に困りごとがあるという患者さんに、デバイス療法のことをもっと知っていただきたいですね。

主治医からのメッセージ

国立精神・神経医療研究センター 脳神経内科 向井 洋平先生



Tさんは、薬を1日5～6回内服しても重いオフ症状が突然現れることがあり、仕事を続けられない状況でした。内服薬の調節を目的に入院されたのですが、復職したいという希望がある患者さんでしたから、デバイス療法が適しているのではないかと考えて紹介しました。

若年で、社会参加への意欲がある患者さんには、デバイス療法を紹介しています。内服薬とは異なる欠点やリスクもありますから、「デバイス療法によって、この患者さんの人生がどう変化するか」ということを常に念頭におき、患者さんが望む変化を得られる可能性があるか見極め、適応を判断するようにしています。

※ 掲載内容のような効果は患者さん個人の体験であり、すべての患者さんに同様の結果がみられるわけではありません。

あきらめない! パーキンソン病治療の応援サイト

パーキンソン スマイル.net

<http://parkinson-smile.net/>



**進行期パーキンソン病に関する“お悩み”に
わかりやすくお答えします。**

病気のこと

パーキンソン病の原因や症状、
病気の経過などを
ご紹介します。

治療のこと

進行期パーキンソン病の
治療について
ご説明します。

病院を探す

進行期パーキンソン病の治療を
実施している医療機関が
検索できます。

※本ウェブサイトはアッヴィ合同会社主催のもと作成・運営されます。